

常照

第832号

『身近にある仏のことば』

最近月参りに伺っているご門徒さまの中で、お参りをした後に、仏教由来の言葉をお話するご縁がきっかけだったかは忘れてしまったのですが、何気ない会話の中で、たまたま仏教を信仰している、していないかに関わらず、私たちが普段使っている日本語には多くの仏教由来の言葉があることをお話したのだと思います。その話に興味があったのか、それか

ら毎月お参りに伺うたびに一つ仏教由来の言葉を紹介するようにになりました。もう何年も紹介してきただけで私も自分の知っている言葉が尽きてしまい、いろいろ調べるようになり自分にとってもいい勉強になりましたので、少しですが皆様にもご紹介していきたいと思えます。

まずは私たちが普段食している食品から「スジャータ」と「カルピス」をご紹介します。「スジャータ」はコーヒーを飲む方ならご存じかと思いますが、コーヒーフレッシュの名前です。このスジャータを作っている会社は「スジャータめいらく株式会社」と言い、日本で初めて液状コーヒーフレッシュを作った会社です。では、スジャータというのには、苦行で疲

れ果てたお釈迦様に乳粥を差し上げた娘さんの名前なのです。お釈迦様がこの乳粥によって体力を回復されたことからコーヒーをより美味しく飲んでいただきたいという気持ちを含めてつけられたのだそうです。

次に「カルピス」ですが、カルピスを知らない方はほぼいらっしやらないと思います。

この「カルピス」という言葉は造語で「カルシウム」と「サルピス」を合わせた言葉です。仏教由来の言葉はこの「サルピス」という言葉で、これはインドの古い言葉ですが、日本語にすると「熟酥（じゆくそ）味（み）」という言葉なんだそうです。あまり聞きなれない言葉ですが、仏教では五味と言つて牛乳から作られるものを1乳味（にゅうみ・牛乳）、2酪味（ら

くみ・ヨーグルト）、3生酥味（しょうそみ・バター）、4熟酥味（じゆくそみ・発酵バター）、5醍醐味（だいごみ・チーズ）のご段階に分けています。最高位のものが醍醐味で次が熟酥味で、醍醐味は「サルピルマング」、熟酥味は「サルピス」と言い、カルピスは最高位のサルピルマングからピルをとり「カルピル」というところでしたが言いづらいので次のサルピスからピスをとり「カルピス」となったそうです。商品の名前にも仏教の言葉がちりばめられているものもあるのでね。因みに醍醐味は私たちもよく耳にする言葉で、人生の醍醐味なんていたりします。これはまさに醍醐味が仏教で最上を意味することから使われた言葉ですね。そのほかにも仏教由来のことば

があります。例えば「がらんどろ」は広々とした場所を表すことばですがこれは「伽藍堂」という言葉でお寺の本堂が広々しているところからきた言葉ですし、「ありがどう」は法句経というお経の「人間に生まれること難し、やがて死すべきもの、いまいのちあるは有難し」からきています。有難しはあることが難しい。めったにないということの意味です。滅多にないことが起こったのでそのことへの感謝として、ありがどうという言葉ができたのですね。「三日坊主」なんて言葉もよく聞きます。これはすぐ諦めてしまう時に言ったりしますが、まさに僧侶になろうと決めて仏門に入ったのに厳しい戒律や修行に心が折れて三日でやめてしまうといったことからきた言葉です。私も得度をしたときに一日

中正座をし続け一日で嫌になりましたが三日であきらめず、得度を終えたことを思い出しました。今は正座をしてもある程度我慢できるようになりました。これも三日坊主で終わらなかつた結果ですね。

「他力本願」

まだまだご紹介したい言葉はありますが今回は最後に「他力本願」をご紹介します。他力本願と聞くと他人の力を当てにする、人任せといったマイナスのイメージを持たれていませんか？実際アノウンサーの方がこのようなイメージでこの言葉を使っている場面を耳にしたことがあります。これは全くの誤用で私としてはこのように使われると大変悲しく思います。

親鸞聖人は「教行信証」の中で「他力といふは如来の本願力なり」とおっしゃっております。即ち「他力」とは他人の力ではなく阿弥陀如来の力であり、「他力本願」とは阿弥陀如来の慈悲の力、はたらかしきことを言うのです。ですから私たちはこの「他力本願」の慈悲のはたらきによって報恩感謝のお念仏が沸き起こってくるのです。言葉は生き物と言われるように時代を経ていく中で生まれたり、意味が変わったりするものかもしませんが、本来の意味を忘れてはならない言葉もあります。どうぞ皆様、「他力本願」のはたらきにこれからも感謝のお念仏をとなえてまいりましょう。

五月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 五月七日(日)〜十一日(木)

和歌山教区 海草組 西方寺

講師 岩清水 成海師

○後期 五月十三日(土)〜十六日(火)

滋賀教区 長浜組 浄願寺

講師 夏木 一丸師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)〜

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話を
して頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、
ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気
実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (011) 447-0017
FAX (011) 447-0017
テレホン法話 (011) 447-0017